



活力ある秋田 Vol.60

ふるさと秋田が教えてくれる 幸せのかたち

[秋田市観光クチコミ大使]

有限責任事業組合「秋田の顔」プロジェクト主宰

金谷 さおり 氏

秋田とのつながりを深めたいと、ウェブサイト「あきたのかお」(<http://www.akita-kaou.com/>)を立ち上げたのは4年前のことです。ふるさとを離れた秋田出身者が人生を切り拓きながら歩む姿取材し、ご紹介する社会活動を続けてきました。

みなそれぞれに夢を追いかけ、時には壁にぶつかったり乗り越えたり。常に周囲に対する感謝を忘れることなく、自分の人生に責任を持って生きていくひたむきな姿には、謙虚でありながらも芯の強い秋田人の美しさを感じます。豊かな自然とあたたかい人のぬくもりによって育まれた奥深い人間的魅力は、秋田の財産といっても過言ではないでしょう。

高校卒業と同時に上京し、すでに16年が経ちました。幼少期から青春期にあたる多感な時代を過ごしたふるさと秋田は、「上手くいったことよりも、上手くいかなかったことの方がちょっぴり多い…」そんな場所です。だからこそ、同郷で生きてきた人々の姿に魅了され、励まされ、たくさんの勇気をいただけてきました。

そのなかで、ふと生じた一つの疑問がありました。活動を通して事あるごとに会おう「地域再生」や「活性化」という言葉に、次第に違和感を覚えはじめたのです。

秋田にないものを探せばたくさんあります。シャッターの閉ざされた商店街を歩いたり、母校閉校のニュースを聞けば、誰だって活気が失われたと感じるでしょう。少子高齢化や過疎化、人口減少などネガティブな指標も数えきれません。

しかし私は、今の秋田に再生や活性化が必要だとはどうしても思えないのです。地域とは時とともに姿かたちを変えるもの。昔と比べて「寂れた」と嘆き過去を取り戻そうとするよりも、今ある豊かさを再発見し、その時代に合った在り方を創造

的に考えることの方が大切なのではないのでしょうか。

私が出会ってきた方々はみな、ふるさとの素晴らしさにしっかりと気づき、育んでくれた土地に感謝をし、それに恥じない生き方をしようと一生懸命でした。なかでも、東日本大震災後、2年間にわたり防災担当大臣・復興大臣の秘書官を務め、現在は国土交通省で持続可能な国土のグランドデザインの構築に携わっている小松雅人さん（にかほ市出身）は、次のように語ります。「秋田県の高齢化は全国トップを走っているが、住み慣れた土地で長生きをして暮らしていけるといことは、人々が本来求めてきた姿。秋田の人が幸せに暮らしている姿を、全国、世界に見せていきたい」

思い浮かべてみてください。

あなたを笑顔にしてくれるのはどんな人ですか？

心が落ち着くのはどんな景色ですか？

食べると元気になるのはどんな物ですか？

世の中にはたくさんの価値観がありますが、私たちは、すでに気がついていないはず。今思い浮かんだものの一つひとつが、かけがえのない秋田の魅力であり、すでにしっかりと自らが手にしている幸せのかたちであることを。

■ 略歴

1979年秋田市生まれ

秋田県立秋田高等学校 卒業

学習院大学経済学部 卒業

学習院大学経済学研究科博士前期課程 修了

秋田高校時代は女性初の生徒会長を務める。

東京三菱銀行（現三菱東京UFJ銀行）、ひきこもりの就労支援を行うNPOを経て、現在は知的障害者施設に勤務（社会福祉士）。秋田の情報を発信するウェブサイト「あきたのかお」編集長。